

◆ 「しあわせの村」でバリアフリー教室を開催しました！

神戸運輸監理部交通環境室は、高齢者や障害者の擬似体験や介助体験を通じて、バリアフリーへの理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や障害者に対して自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」を推進するため、「バリアフリー教室」を随時開催しています。

今回は、令和2年11月1日（日）に神戸市北区の「しあわせの村」において開催された「第31回こうべ福祉・健康フェア」にブースを出展し、「バリアフリー教室」を実施しました。

今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、エリア内の人数制限や最大滞在時間を2時間とする入れ替え制、体験後の消毒等を実施した上での開催となりました。



当日は、「車いす自走・介助体験」、「視覚障害者擬似体験」を行い、子供から大人まで幅広い年齢層の多くの方々にご参加いただき、一部の体験では順番待ちの列ができるなど大盛況となりました。



「車いす自走・介助体験」では、車いすの基本的な操作方法、介助時の注意点などを職員が説明した後、実際に体験することで車いすの安全な使い方や困っている利用者への介助方法等について理解を深めていただくことができました。

体験者からは「一人では芝生の起伏も超えるのが難しいので、介助の重要性を実感した」という声もありました。



「視覚障害者擬似体験」では、視覚障害者誘導用ブロック（点字ブロック）の意味や白杖の使い方の説明を行った後、アイマスク・白杖を使用して実際に歩いていただきました。

広場を白杖だけで歩くのは難しかったようで、アイマスクを外した後に「思った場所とは違うところにいる」と驚いた方もおられました。

また、白内障や視野狭窄体験用の特殊な眼鏡で配色の違うポスターを見ていただきました。色の違いによる見づらさを実感した方は、「あっちは見えるけれど、こっちは見えない！」という声を上げていました。

この経験を通じて、街の中の配色は考えられて決められているということを実感していただきました。



今後も、「バリアフリー教室」を通じ、気軽に「お手伝いしましょうか」と声かけができる人を増やし、「心のバリアフリー」の推進を図っていきます。

（企画推進本部 交通環境室）